

全科協 ニュース

URL <http://jcs.m.kahaku.go.jp>

全国科学博物館協議会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9857 Fax.5814-9898 平成16年11月1日発行（通巻第199号）

特集 博物館における連携事業について 学校や地域と連携して公民館に「博物館」をつくる活動

滋賀県立琵琶湖博物館 交流センター 西垣 亨

1. はじめに

琵琶湖博物館では、交流事業の一つの柱として学校連携事業を掲げており、年間85,000人の学校団体を受け入れ、その中の12,000人以上の児童生徒に対して体験学習プログラムを実施している。その目的は、子どもたちの身近な自然や暮らしに対する興味関心を高め、フィールドへ誘うことにある。毎年度末に学校に対して実施するアンケートによると、博物館での学習は概ね高い評価を得てはいるが、ほとんどの学校とは「一日だけのおつきあい」になっている現状がある。「一日だけのつながり」は、より多くの子どもたちと関わるができる反面、博物館での学習効果を検証することや、「その学校が在る地域と博物館との結びつき」に発展することは難しいと言える。

そこで本館では、年間を通して学校やその周りの地域と関わりながら、そこに琵琶湖博物館の良さを生かせるような学習プログラムを実施することにした。昨年度実施した「伯母川探検隊～地域の人とつくる伯母川博物館」事業は、そのような背景から生まれたものである。

年間を通じて特定の学校・地域と連携するプログラムは、



写真1 伯母川の生き物調査

琵琶湖博物館としては初めての試みである。ここではその事業の内容と成果について述べる。

2. 事業実施に向けて

この連携事業を実施するにあたり、次の3点を柱とした。

①博物館・学校・公民館の三者連携によるプログラム開発
それぞれの代表者によるプログラム開発委員会を立ち上げ、定期的に意見交換を行いながら事業（学習）の方向を決定した。

②地域の川を利用した学習プログラムによる子どもたちへの学習支援

自然の楽しさや生き物のおもしろさを体感しつつ、そこに学芸員の専門的知識を生かせるような学習を展開することで、将来の地域を担う子どもたちが地域の自然に親しみ、環境学習の本来の目的である「地域を好きになること」へつながっていくのではないかと考えた。

③地域の価値を再発見し、地域の交流の場となるような「博物館」づくり

子どもたちの学習成果や地域の人々からのメッセージを中心とした展示を公民館内で行う。コミュニティの拠点で



写真2 伯母川博物館内の風景

現在この事業は琵琶湖博物館の手を離れ、地域の中に設立された伯母川博物館実行委員会によって運営されている。今年の伯母川博物館は、今年の事業の中で発足した子どもエコクラブ「伯母Q五郎」が中心となり、昨年度と同じ11

月に公民館内に開館する予定である。

(この事業は、科学技術振興機構平成15年度地域科学館連携支援事業の支援を受け実施した。)

地域と密着した子供達への環境啓蒙活動 「富士川っ子エコクラブ」

富士川楽座 事業部 小池 雅記



写真1 第1回エコクラブ開会式

発足主旨

これからの地球環境を守る為には、みんなが環境を大切にする意識を持ち環境にやさしい暮らしをしていく事が大切です。しかし、近年子供達の遊びや活動の範囲が屋外や自然の中から屋内やそれに近い狭い範囲に限られてきている様に感じます。その事が環境への関心を薄くしている要因の1つと考えられます。

エコクラブ発足の主旨として、様々なプログラムを通し

て子供達の「知る・考える・行動する」を応援し、子供達が元気よく外で遊び、何にでも興味をもち自らいろいろな事に挑戦できる環境を作る事が重要と考え、「富士川っ子エコクラブ」の活動を通じて子供達にこれからの地球環境について少しでも関心を持ってもらう事を目標としています。

発足の経緯、クラブの概要

富士川町ではここ数年の間に、環境についての取組が盛んに行われるようになりました。

(具体例)●富士川町主催で年1回行われる「環境フェア」(2002年度より「環境創造祭」に名称変更)の開催。

●富士川楽座・富士川体験館「どんぶら」において「エコガク」と称し、環境をテーマとした営業展開(昨年度より実施、今年度は富士山の環境をテーマにしている)。

●自然観察会の実施(毎月1回)。

そのような動きの中で、地元の有志で結成されたコンソーシアム「富士川っ子が育つ会」と富士川楽座とで、上記の主旨をもとに誕生したのが、「富士川っ子エコクラブ」です。

役割分担は、活動内容の企画立案、関係機関への協力依

美術

はく製

〈各種生物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース

有限会社 東洋近代美術研究所

製作所 〒272-0816 ☎047-337-5678
千葉県市川市本北方2-18-1 FAX 047-338-1978

本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT

白 ONY KOBO CO.,LTD.

東京都千代田区神田神保町2-7-3シグマ神保町4階
TEL (03) 3221-1102代 FAX (03) 3221-1185

動物園/水族館/博物館
企画・設計・施工

頼、子供達への指導を富士川っ子が育つ会、会員の募集、管理、情報提供、窓口を富士川楽座で行っています。

会員は、富士川町立第一小学校、第二小学校の生徒を中心に、富士市、富士宮市、静岡市等、富士川町内外の子供で構成しています。また、今年度は8班編成とし、小学6年生をリーダーにして、班毎で活動しています。(前ページ写真1)

活動概要

活動初年度の昨年は、富士川楽座農園での農業体験を主体として活動してきました。農園では富士川町をはじめ農家や地元JA、ボランティアの皆様など多くの方より協力を頂き枝豆、ジャガイモ、エンドウ豆、カボチャ等の種植えから収穫までを行いました。現在はジャガイモと蕎麦の栽培を行っています。また農業体験だけでなく農園までの道のりを片道約40分かけてウォーキングし、自然観察をすると共に足腰を鍛えています。農園では農作業だけでなく、そこに現れる様々な虫や生き物を捕まえて観察するなど実際に手にとる事により普段は見過してしまうような自然を体感し身近に感じると共に、農園の看板作りの手伝いなど様々な体験を通して協力し合いお互いの信頼を深められる様な体験を企画し、実施してきました。

今年度は、富士川町主催の事業で毎年8月に行われる「水生生物調査」に参加したり、8月6日～8日に滋賀県で開催された、静岡県・愛知県・滋賀県・毎日新聞社主催の「3県こども環境会議」に参加しました。

また、地元の市民活動団体の活動情報等を告知し、会員に積極的な参加を促しています。(写真2)



写真2 農園での作業の様子

活動日

毎月1回 第三日曜日 9:00～13:00 集合・解散
富士川楽座

*農作物の成長状況や他の催事との調整で変更する事あり。

会員数

平成15年度 48名

*幼児(5歳)～中学1年(13歳)

平成16年度 71名

*幼児(5歳)～小学6年(12歳)

実施状況

(第1期)

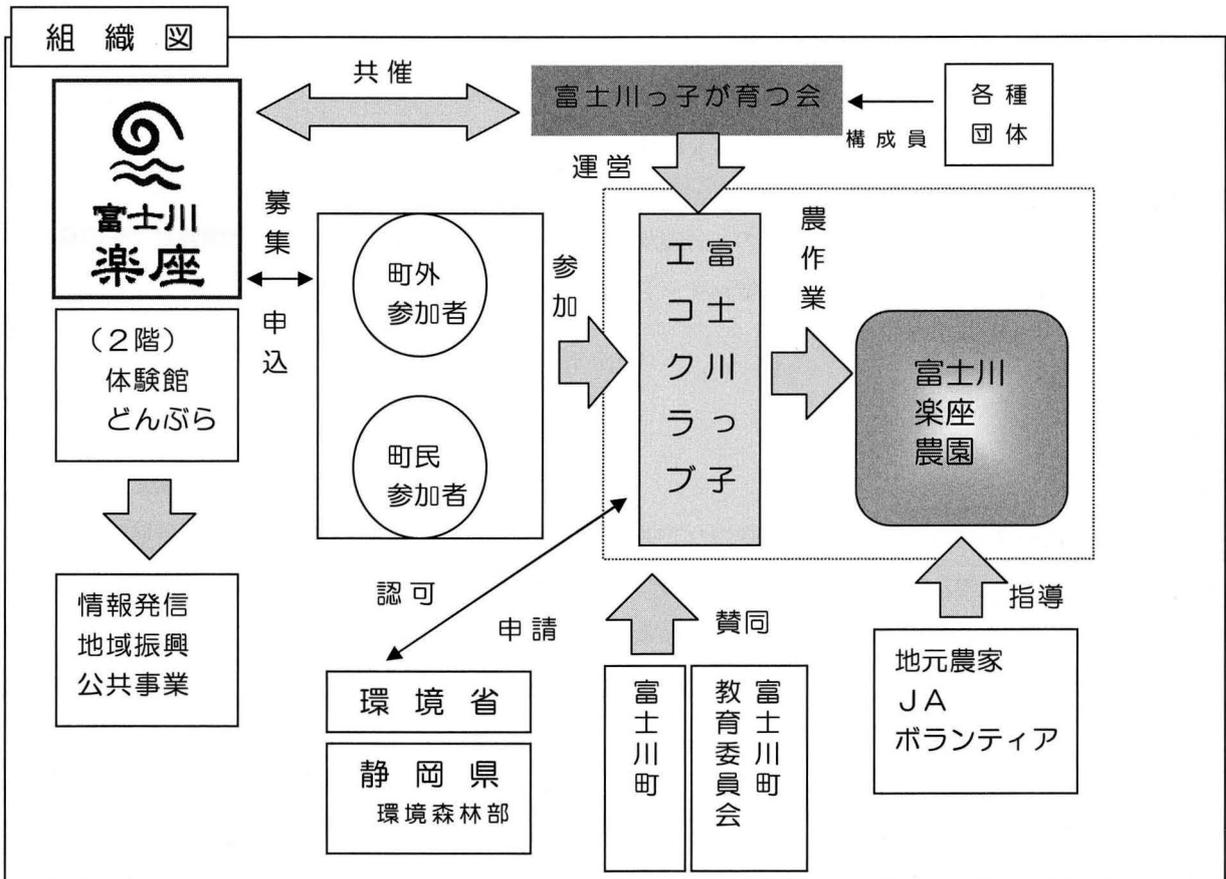
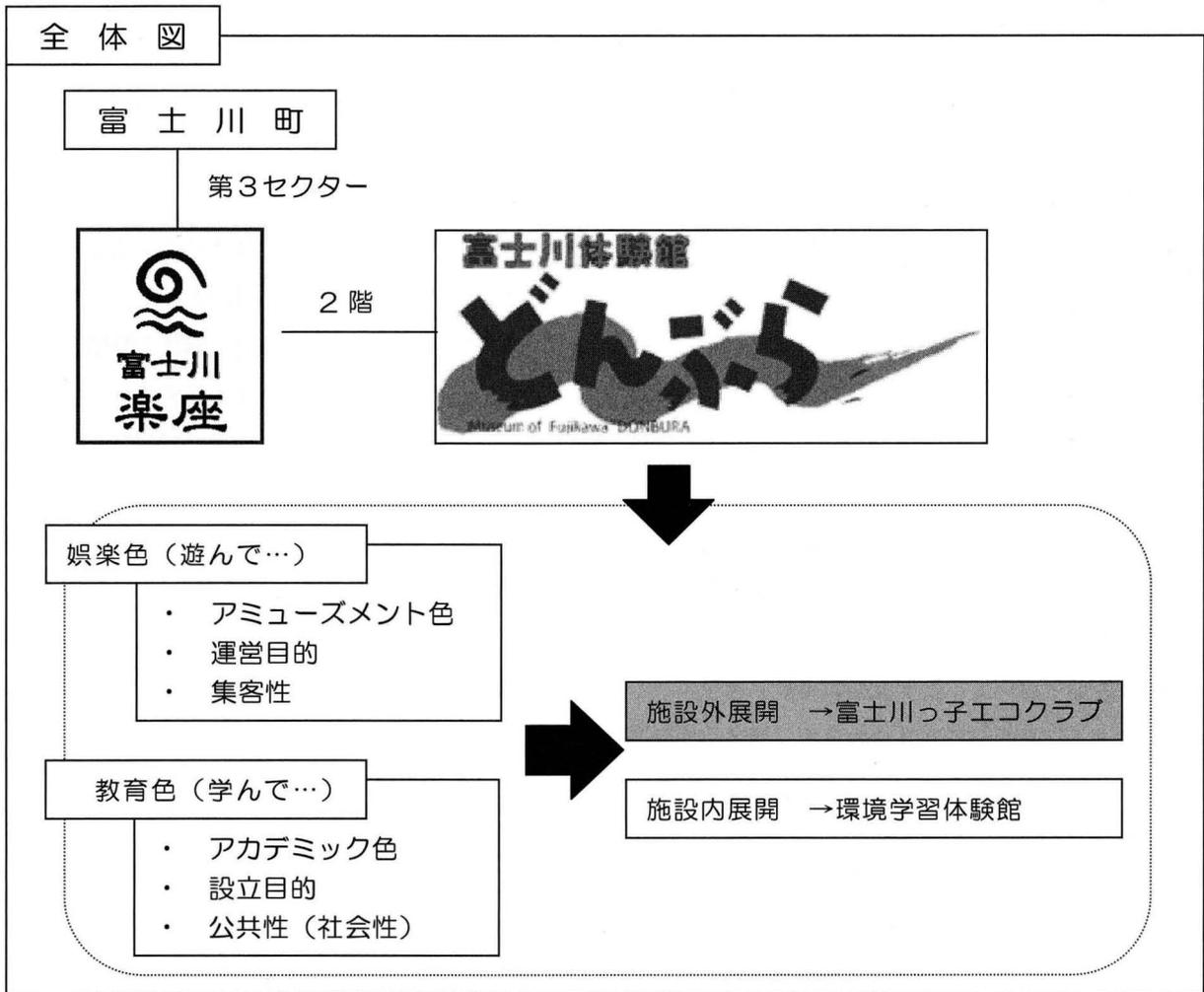
- ・第1回 H15年6月29日(日) (枝豆の種まき)
- ・第2回 H15年7月20日(日) (畑の手入れ)
- ・第3回 H15年8月10日(日) (農園の看板作り)
- ・第4回 H15年9月7日(日) (枝豆の収穫、蕎麦の種まき)
- ・第5回 H15年10月19日(日) (畑の手入れ)
- ・第6回 H15年11月23日(日) (蕎麦の収穫)
- ・第7回 H15年12月14日(日) (蕎麦打ち体験)
- ・第8回 H16年1月25日(日) (畑の手入れ)
- ・第9回 H16年3月21日(日) (閉講式、影絵の鑑賞)

(第2期)

- ・第1回 H16年4月18日(日) (枝豆、かぼちゃの種まき)
- ・第2回 H16年5月23日(日) (えんどう豆の収穫)
- ・第3回 H16年6月27日(日) (ジャガイモの収穫)
- ・第4回 H16年7月11日(日) (枝豆の収穫)
- ・第5回 H16年8月22日(日) (水生生物調査)
- ・第6回 H16年9月12日(日) (蕎麦の種まき)

今後の活動展開

現在は、農園での作業を中心に行っていますが、今後は富士川町を中心に近隣市町村、富士山にも目を向け、周辺の自然観察や洞窟探検等といった、体験を中心としたプログラムの開発並びに実施を推進していきたいと考えております。また、他のエコクラブ団体並びに関係機関との交流を図るべく積極的なアプローチをしていきたいと思いません。



千代田区立九段小学校との連携について

財団法人 日本科学技術振興財団 科学技術館

千代田区立九段小学校と当館との連携は、2001(平成13)年6月から始まり今日に至っている。そのきっかけと連携内容についてご報告したい。

1. 連携のきっかけ

2001年5月、科学技術振興事業団(JST、平成15年10月独立行政法人科学技術振興機構に改組)により「科学館・学校連携強化資料の開発・普及事業」が開始された。

この事業は、「科学館の職員と地域の学校の先生との連携による学習教材の開発を支援することにより、小学校及び中学校の理科授業において、科学技術の基本原則をわかりやすく体得できる学習教材の普及をめざす」(科学技術振興機構ホームページ)ものである。

当館の周辺校では、千代田区立九段小学校の理科の先生から「学校では実験・体験できないものがあれば科学館を利用したい。学習パッケージの利用希望。教材開発の参加も可能。学校での問題点は植物栽培や自然観察が実施しにくい。」との要望を知ることができた。

当館では「科学技術館サイエンス友の会」(小学校3年生～一般の会員で構成)の活動の一つとして、当館がある皇居外苑北の丸公園において春・夏・秋・冬各季節ごとの自然観察会を毎年行い好評を博している。

そこで、自然観察を共通のテーマとして、北の丸公園及び九段小学校に隣接する東郷公園を含めた自然観察キットを開発することとし、連携がスタートした。

2. 連携内容

(1) 教材開発

北の丸公園は、東西約660m、南北約550m、面積19万3000m²(東京ドームの約4倍)の、都心でも屈指の広さを持つ森林公園であり、また、希少動植物が数多く生息していることでも知られている。

開発教材の自然観察キットは、北の丸公園(東郷公園を含む)及びその周辺地域を対象地域とし、都心に生きる動植物をとりまとめたリーフレット、白地図、観察の手引などからなる。

利用の場及び利用対象は、九段小学校における理科及びクラブ活動、科学技術館ではサイエンス友の会の自然観察会において利用することを目的とした。

教材開発は科学技術館職員、嘱託で動植物の専門家、九段小学校の理科教諭で構成する運営委員会において打ち合わせを重ねた。開発した教材は、当初想定した利用に加え、現在では総合的な学習の時間において活用されている。

(2) 北の丸公園を利用した自然観察活動(フィールドワーク)

連携がスタートした当初、九段小学校では子供たちにフィールドワークを体験させたいとの希望はあるものの、北の丸公園まで出かける時間と学習効果との兼ね合いや、指導が行き届かないことなどから、北の丸公園を利用することは飛躍があるとの見解だった。

しかし、教材開発を進める中で、当館が指導者を派遣することにより「総合的な学習の時間」にフィールドワークを実施することが可能となり、現在まで3年間連続して、北の丸公園の自然観察活動を実施している。

以下、平成13年度から現在までの連携内容と成果について述べる。

—平成13年度—

「自然観察教材—冬編」の教材開発と「冬の自然観察」の実施

開発教材を共同提案し、採択されたので、北の丸公園の動植物各50種の写真を掲載したリーフレット(B4判・4色・表裏・二ツ折)、白地図(北の丸公園、東郷公園)、観察の手引(B5判・1色・12頁)を開発した。

この教材を活用して、平成14年2月、5年生が理科の授業で初めて北の丸公園の冬の自然観察を行った。

子供たちは教材を入れた、たんけんバッグ(A4判用紙用大型ポケット付きバッグ、ルーペ・ミルビン付き、市販品)を肩から下げ、学校から徒歩で30分ほどかけて北の丸公園にやってきた。指導者の解説により2時間(動物植物各1時間づつ)自然観察活動を行った。天候に恵まれたため、自然観察に興味を示し熱心に取り組んだ。

—平成14年度—

「春編」「夏編」「秋編」の教材開発と「自然観察」の実施

前年に引き続き、開発教材を共同提案し採択されたので、「春編」「夏編」の各リーフレット（動植物各50種の写真、A3判・4色・表裏・四ツ折）及び観察の手引（A5判・1色・16頁）を開発した。

また、文部科学省が実施する「科学系博物館教育機能活用推進事業」の委託を受け、秋の自然観察活動を4回にわたって行うと共に、「自然観察教材秋編」の動植物リーフレット（動植物各50種の写真、A3判・4色・表裏・四ツ折）及び観察の手引（A5判・1色・16頁）の開発を行った。

この活動においては、児童各自が観察テーマを見つけ、専門家から自然観察の方法や着眼点を学び、児童が主体となった自由追求活動を行うことを主眼とした。児童は学年末にディスプレイ型ポートフォリオを作成し、まとめたテーマを公開授業においてポスターセッション方式で発表した。

—平成15年度—

1年を通しての北の丸公園自然観察活動と普及教材の試用

北の丸公園の自然観察活動を5年生の冬から始め、春・夏・秋各季節ごとに1年間行い、卒業することが定着した。

また、JSTが行っている「科学館・学校連携強化資料の開発・普及事業」において他館が開発した教材「地層堆積実験装置」のフィールドテストを、九段小学校の授業及び当館サイエンス友の会の活動で実施した。授業に先立って実施した地層の現地観察への参加や、九段小学校の授業を参観させていただいたり、実験状況などについて情報交換を行った。

—平成16年度—

1年を通しての北の丸公園自然観察活動と、新たな分野での連携

「科学館・学校連携強化資料の開発・普及事業」での教材開発をきっかけとして始まった北の丸公園自然観察活動は、現在は「総合的な学習の時間」の柱の一つと位置付けられて、1年を通して各季節2回づつ実施している。当館は指導者を派遣し児童の指導に当たっている。

また、新たな分野での連携については次項で述べる。

3. 今後の連携について

教材開発に端を発した連携活動は、当初思っていた以上の成果を収めつつある。北の丸公園というまさしく都会の

真ん中というロケーションでありながら、四季を通じて豊かな動植物相を身近に観察することができるため、子供たちにとってとても魅力的な学びの場となっている。中には、授業だけでなく休日にも北の丸公園に来て自主的に観察している子供がいるようである。

科学技術館としては、地域に根ざした教育・学習の場の提供として本連携を今後もさらに深めて行きたいと考えている。

また、九段小学校とは本連携をきっかけに、新たな連携も計画している。

科学系博物館と学校との連携活動を支援することを目的として、科学技術振興機構が行っている「地域科学館連携支援事業」において、本年度、科学技術館から「出張ラボラトリー—電子顕微鏡でミクロの世界を見てみよう—」を企画として提案し、これが採択された。本企画は、従来、科学館や大学の研究室等でしか使用できなかった走査電子顕微鏡を学校に持ち込み、学校の備品だけでは不可能な観察体験を児童・生徒の手で行ってもらおうというものである。九段小学校とは、本企画においても連携していく予定である。授業の中で、動物や植物、塩などの無機物、ブドウ糖のような有機物、トイレットペーパー、LSIなどの工業用品を、児童自身の手で観察してもらい、目視や光学顕微鏡では得られない知見を、自らの手で得てもらおうと考えている。

科学、それはとても広い領域である。学校の理科や科学の授業で扱うのは、そのほんの一握りにすぎない。科学の基礎の基礎をほんの少し扱うだけである。科学技術館としては、館と学校とが連携することより、学校の授業では扱わない、扱うことのできない科学の領域の広さ、深さ、探求する面白さや知識を、子供たちに自分自身の体験として少しでも提供できればと考えて活動を行っている。自分で探る体験、これが科学の芽を育てる鍵であり、社会教育施設・生涯学習施設である科学技術館が学校と連携する意義に他ならない。

最後に、本事業を進めるに当たり貴重な助言、指導を頂いた九段小学校の石井雅幸先生はじめ多くの先生方、子供たちの指導に当たっていただいた松田邦雄先生、永井昭三先生、そして資金的支援をいただいた文部科学省、科学技術振興事業団、その他ご協力を頂いた多くの方々に謝意を表します。

られ、スミソニアンが新たに整備する先住民博物館のもととなった。1994年には、本格開館を前に、ニューヨーク市の中心部にジョージ・グスタフ・ヘイ・センターが開館し、同コレクションの一部が公開された。同センターは今後も開館が続くが、規模は漸次縮小される計画だ。

ワシントンDCの本館では、五つの常設展示ホールを使って、約8000点の北米先住民関係資料が見ることができる。年間500万人が訪れると館側は想定している。

National Museum of the American Indian.

http://www.nmai.si.edu/opening/openingimages/opening_images.html

米ペンシルバニア鉄道博物館に、運転の疑似体験ができる貨物機関車が登場

ペンシルバニア鉄道博物館（ペンシルバニア州ストラスバーク市）に、このほど総重量140トンの電気機関車がノーフォークサザン鉄道から寄贈され、10月10日から公開が始まった。1969年以来、東海岸一帯で長距離貨物輸送を専門にやってきたこの機関車（GE社製 GP-38）には、運転室に運転の体験ができるシミュレーション装置が設けられており、観客は運転席に座りながら6分間の運転を体験できる。電車のシミュレーション運転が体験できる鉄道博物館は各国にあるが、貨物輸送の機関車の体験できる場所は珍しい。Railroad Museum of Pennsylvania.

<http://www.rrmuseumpa.org/whatsnew/simulator.htm>

米カリフォルニア科学アカデミー、アリの企画展を開催中

熱帯地方に棲息する軍隊アリ（*Eciton burchellii*）は、欧米の昆虫学者の間では「昆虫世界のファン族あるいはタートル族」と形容されるぐらい、肉食のおそろしいアリだ。ピラニアのようにトリやネズミやトカゲなどの小動物をよってたかって食べてしまう連中だ。

現在サンフランシスコのカリフォルニア科学アカデミーで開催されている企画展「Ants: Hidden Worlds Revealed」（ハワード街の仮設展示施設で開催中）では、トリニダード・トバゴで採集された軍隊アリの生態が展示室内の飼育ケースで紹介されている。同展では、他にメキシコで採集されたミツツボアリ（*Myrmecocystus mexicanus*）や、ひたすら植物の葉を切ることを仕事にしている中南米産のハキリアリ（*Atta cephalotes*）、アルゼンチンとブラジルを主な生息地としているアルゼンチンアリ

（*Linepithema humile*）なども紹介されている。

Ants:Hidden Worlds Revealed.

<http://www.calacademy.org/naturalhistory/ants.html>

全面改装中の米フランクリン科学館で、人気の心臓模型が再登場

フィラデルフィアのフランクリン科学館で、このほど心臓をテーマとした新しい常設展示「The Giant Heart: A Healthy Interactive Experience」が2004年10月1日にオープンした。約460㎡の展示面積をもつ同展では、心臓について四つの展示テーマが設けられている。「心臓の解剖学的しくみと生理機能」「心臓をめぐる健康とウェルネス」「血液」「心臓の診断方法と治療方法」。

同展は、1954年にオープンした心臓の常設展示「The Engine of Life」を全面更新したもののだが、長く人気があった目玉展示の巨大な心臓模型がお化粧直しをして、今回のリニューアルで新しい使命をもって再登場した。観覧者は前と同じように、この巨大な心臓模型の中をわくわくしながら歩くことができる。心臓展示の総工費：200万ドル。1933年完成の同館は総工費6100万ドルをかけてすべての常設展示の更新を手がけており、新しい心臓展もそのうちの一环だ。観客の誘致を目的で、一定期間近くのローガン街に屋外スピーカーを設置して、心臓の鼓動を録音したテープを流している。

<http://www.fi.edu/tfi/exhibits/biosci.html>

米国で元博物館職員、ライト兄弟の飛行機模型を窃盗した罪で収監へ

ニューヨーク州ロングアイランドのナッサウ郡立博物館で資料修復を担当していた元職員が、同州内の航空発祥博物館（ガーデンシティ市）で所蔵されていたライト兄弟が制作した最初の航空機の模型やその他の多くの同館収蔵品を盗んだ罪で刑が確定し、4年間の刑務所収監が決定された。リチャード・カップラー被告（57歳）が航空発祥博物館から盗んだ収蔵品の点数は103点を数え、総額76,000ドルの被害額に相当した。ライト兄弟の飛行機模型はニューヨークのオークションで10万ドルで競り落とされ、これが多くの関係者の知るところとなり、犯人逮捕に結びついた。Nassau County Museum. Cradle of Aviation Museum.

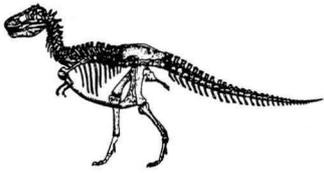
*（やすい・りょう） E-post: RGYasui@obirin.ac.jp

11月12月の特別展

開催館	展覧会名	開催期間
むつ科学技術館	巡回展「ナーノの冒険“バイオ編”“IT編”」	11月3日～4月14日
岩手県立博物館	第53回企画展「消えゆく岩手の自然—生き物たちのメッセージ—」	10月23日～12月19日
秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館	2004年後期企画展「豊かなくらしとエレクトロニクス—懐かしく・楽しく・夢ふくらむ体験を—」	10月1日～11月10日
郡山市ふれあい科学館	企画展「惑星状星雲のふしぎ」	11月2日～12月26日
	企画展「JAXA スペースツアー」	12月25日～1月10日
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	特別企画展「恐竜たちの足音が聞こえる—中国 そして日本—」	7月17日～11月14日
栃木県立博物館	企画展「大関増裕—動乱の幕末となぞの死—」	10月3日～11月23日
	テーマ展「石に刻まれた祈り—板碑を通して—」	12月5日～1月30日
	テーマ展「谷文晁のその周辺」	12月5日～1月30日
	テーマ展「栃木県の脊椎動物化石」	7月10日～3月31日
群馬県立自然史博物館	第23回企画展「オランウータンの森—東南アジアの熱帯雨林を探る—」	10月2日～11月28日
さいたま市青少年宇宙科学館	第14回 植物画展	10月23日～11月28日
	ワクワクランドパートII	12月4日～1月10日
川口市立科学館サイエンスワールド	特別展「自転車展～走れ疾風の如く～」	11月20日～1月23日
狭山市立博物館	企画展「浅きにふかき事あり……—狂言『入間川』の世界—」	10月16日～11月21日
入間市博物館	入間川4市1村合同企画展「入間川再発見！—身近な川の自然・歴史・文化をさぐって—」	11月14日～12月19日
所沢航空発祥記念館	秋の特別展「航空業界に生きる人々～仕事場は大空！～」	10月2日～12月12日
千葉県立中央博物館	秋の展示「語る・観る、房総の石仏」	11月20日～12月26日
千葉県立現代産業科学館	（助）千葉県文化財センター30周年記念展「掘り起こされた房総の歴史」	11月9日～12月12日
東金子ども科学館	全国科学館連携協議会巡回展「毛利宇宙飛行士の部屋」	12月17日～2月16日
逓信総合博物館	ボストン美術館所蔵 ローダー・コレクション「美しき日本の絵はがき展」	10月5日～12月12日
	「私のアイデア貯金箱」コンクール展作品展示会	11月3日～11月7日
国立科学博物館	特別展「翡翠展 東洋の至宝」	11月13日～2月13日
国立科学博物館附属自然教育園	企画展「東京のカラス」	10月17日～11月23日
国立科学博物館附属つくば植物園	企画展「ラン展」	10月31日～11月7日
交通博物館	特別展「JR電車100年記念展～甲武電車から新幹線まで～」	10月2日～12月26日
機械産業記念館（TEPIA）	「e-ライフ展」～生活産業の新技術～	9月10日～12月17日
たばこと塩の博物館	企画展「マッチラベルの世界～ポッケの中の凶像学～」	10月30日～1月10日
葛飾区郷土と天文の博物館	企画展「帝釈人車鉄道—人車のゆくえを追って—」	10月23日～12月19日
東京農工大学工学部附属繊維博物館	秋の特別展「ミシンのアート“技術の歴史・芸術の開花”」	11月10日～11月14日
横浜子ども科学館	企画展「ピカッと！展 あかりとひかりの秘密」	10月2日～2月20日
神奈川県立生命の星・地球博物館	特別展「+2℃の世界～縄文時代に見る地球温暖化～」	12月18日～2月27日
新潟県立自然科学館	巡回展「サイエンス展示アイデアコンテスト受賞展示物展」	9月18日～12月19日
	「アメリカ伊能大図里帰りフロア展」	11月19日～11月23日
富山市科学文化センター	企画展「ふしぎいっぱい自然と科学」	10月21日～11月14日
	サークル展	11月19日～11月23日
	富山県ナチュラリスト協会写真展	11月27日～12月12日
立山カルデラ砂防博物館	企画展「立山カルデラ 緑の変遷—荒廃地からの回復」	9月18日～11月7日
	巡回展「ハーンとローエル」	11月13日～12月5日
	生物教育写真展「自然から学ぶ」	12月11日～12月26日
黒部市吉田科学館	鉄道展「銀河鉄道の夢」	10月30日～1月6日

開催館	展覧会名	開催期間
佐久市子ども未来館	巡回展「サイエンス展示・実験ショーアイデアコンテスト受賞作品展」	12月23日～5月8日
飯田市美術博物館	特別展「京都の日本画—京都画壇の俊英たち—」	11月13日～12月19日
岐阜県博物館	特別展「里山ミュージアム～ドングリころころオオタカびゅーん」	9月18日～11月14日
	発掘速報展「～いにしえの美濃と飛騨～」	11月16日～12月19日
中津川市鉱物博物館	私の展示室「博物誌—描かれた自然—」	12月5日～3月21日
瑞浪市化石博物館	特別展「日本の化石シリーズ9—近畿の化石—」	10月10日～12月5日
ディスカバリーパーク焼津	特別展「木のからくりおもちゃ展」	10月9日～12月5日
真珠博物館	企画展「愛の妙薬」	4月16日～12月13日
鳥羽水族館	特別展 ポーンズ博士のホネ研究所「わしゃ戻ったゾ！」	2月14日～11月7日
滋賀県立琵琶湖博物館	企画展示「のびる・ひらく・ひろがる—植物がうごくとき—」	7月17日～11月23日
	ギャラリー展示「ミクロの世界を探検しよう～プランクトンの不思議～」	12月23日～4月10日
きしわだ自然資料館	特別展「ため池と生きる」	10月19日～12月19日
伊丹市昆虫館	企画展「きのみ・くさのみ」	10月6日～12月6日
	企画展「伝説の昆虫雑誌インセクトarium」	12月15日～3月7日
姫路科学館	自然写真展	11月20日～1月10日
明石市立天文科学館	「広瀬安美 絵本 民家の旅」	10月19日～11月30日
	「全国カレンダー展」	12月15日～1月28日
鳥取県立博物館	特別展「鳥取藩32万石」	10月16日～11月14日
	企画展「現代の表現 鳥取 vol.2 平久弥・池本喜巳」	11月21日～12月19日
	郷土作家展「板画の詩 長谷川富三郎」	12月23日～1月23日
島根県立宍道湖自然館	第8回特別展「のぞけばそこにメダカたち」	12月18日～1月30日
倉敷市立自然史博物館	特別陳列「宇野弘之ガ類コレクション展」	11月3日～12月5日
	特別陳列「むしむし探検隊報告」	11月3日～12月5日
	特別陳列「海洋開発研究機構の展示（仮題）」	12月4日～12月11日
	特別陳列「第12回しぜんしくらしき賞作品展」	12月12日～4月3日
広島市子ども文化科学館	第9回 海の図画展	11月16日～11月23日
	小学生（環境・ゴミ問題）絵画コンクール入賞作品展	12月3日～12月5日
広島市健康づくりセンター健康科学館	企画展「生命の未来」	10月1日～12月26日
広島市交通科学館	企画展「絵のなかの乗りものたち—昭和の子どもがみてきた世界—」	10月14日～12月19日
防府市青少年科学館	企画展「新幹線おもしろ探検隊」	10月22日～11月28日
山口県立山口博物館	企画展「サイエンスやまぐち2004」	10月29日～11月23日
愛媛県立博物館	特別展「愛媛県児童生徒理科研究作品展」	10月30日～11月7日
	テーマ展「赤石山系の変成岩」	10月1日～11月28日
	テーマ展「愛媛の楓（カエデ）」	12月3日～1月30日
北九州市立自然史・歴史博物館	企画展「襦袢（らんる）の世界～堀切辰一布のいのち見つめて～」	10月8日～11月28日
福岡県青少年科学館	企画展「科学と遊ぼうサイエンス広場」～路地裏のあそび・おもちゃの科学展～	12月11日～1月10日
佐賀県立宇宙科学館	秋の企画展「環境にやさしいエネルギー」～地球のことを考えて一人ひとりができること～	9月18日～11月14日
宮崎県総合博物館	特別企画展「黒潮と南の島の生き物—宮崎～琉球列島・海と森の生きもの大集合！—」	10月9日～1月30日
	企画展「日本自然科学写真協会写真展」	12月18日～1月30日
鹿児島県立博物館	写真展「鹿児島県の地名のついた植物」	12月18日～1月16日
沖縄県立博物館	企画展「自然界のエイリアン～海をこえて持ちこまれた動物たち～」	11月9日～12月12日

※世界の化石・
 鉱物・恐竜・化石
 人類・動物骨格
 標本及び模型の
 輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式会社 **ゼネラルサイエンス**
 コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
 TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

ミュージアムの集客を強力にサポート
 新たなコミュニケーションメディア【イベントナビ】



イベント情報ポータルサイト
EventNAVI
<http://www.eventnavi.ne.jp>

全国のイベント情報年間約10万件を発信するイベントナビ。
 企画展・特別展などへの来場促進に、ぜひご利用ください。

株式会社 乃村工藝社
 イベント情報
 無料登録受付中!

本社：東京都港区芝浦4-6-4 〒108-8565 電話 03-3455-1171
 ホームページ <http://www.nomurakougai.co.jp>
 ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング
 企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工
 ISO9001認証取得（文化環境カンパニー）ISO14001認証取得（MCカンパニー）

高品質表現力

文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・制御演出・施工



株式会社 ココロ

〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
 TEL: 042-530-3939 FAX: 042-530-4050
<http://www.kokoro-dreams.co.jp/>

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
 監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

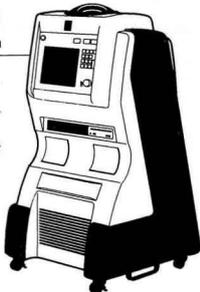


株式会社 丹青社

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)
 札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡
 URL <http://www.tanseisha.co.jp>

省スペース展示に最適な、小型ドームCG映像システム
メディアグローブ、誕生

メディアグローブは世界で初めてフルカラー
 投映を可能にした小型・高精細のデジタル
 プラネタリウム。さらにドーム全天に高画質な
 CG映像を投映するマルチ投映機能を持ち、
 さまざまなシーンで活躍します。
 ▶各種イベント等にも対応。レンタルもご相談ください。



コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

東京事業所 〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル12階 TEL (03) 3349-5301
 大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス11階 TEL (06) 6110-0570
 東海事業所 〒442-0067 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL (0533) 89-3570
 URL: <http://konicaminolta.jp/planetarium/>

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



地学標本(化石・鉱物・岩石)
 古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

since 1974

●常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)

株式会社 東京サイエンス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イフォ・アネックスビル
 TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745
<http://www.tokyo-science.co.jp> E-mail: info@tokyo-science.co.jp

全科協ニュース編集委員会

- NHK放送博物館 チーフディレクター 河野光子
 滋賀県立琵琶湖博物館 企画調整課長 高橋啓一
 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
 資料課長 國府田良樹
 独立行政法人国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課長 井上透
 独立行政法人国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課専門職員原田紀子
- 全科協事務局**
 国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課 齊藤 健
 Tel.03-5814-9857 Fax.03-5814-9898

発行日 平成16年11月1日
 発行 全国科学博物館協議会©
 〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内
 印刷 島崎印刷株式会社